

第1回SCカフェ アンケート/未経験者(N=157)

問2. 今回の生活支援コーディネーターカフェについての感想をご自由にお書きください。また、より詳しく知りたいと思った点がありましたらあわせてお書きください。

＜感想＞良かった点

- ・ 全国の生活支援コーディネーターの方々の意見を直に聞くことができる貴重な場で、有意義な事例も豊富にあり勉強になった。本音で話し合われていて、親近感があった。
- ・ 活動のヒントとなる取り組みが数多くあり、とても刺激を受けた。モチベーションアップにも繋がった。
- ・ やわらかい雰囲気、匿名のチャットのため気軽に質問ができる環境だった。
- ・ カフェでの取り組みについての点が参考になったかなど、本市の生活支援コーディネーターと意見交換したいと感じた。
- ・ 地域に出向き住民に寄り添うことが大事であることが分かった。
- ・ それぞれの市町によって体制が異なることがよく分かった。
- ・ 携わる諸問題をどう解決にむけて進めていくか具体的に話を聞けて良かった。
- ・ 各自治体における行政と生活支援コーディネーターの関係性を知れて、今後の参考になった。
- ・ 業務が多岐に渡るため、どの自治体でも日々悩みながら取り組んでいること、またうまく進んでいるところはとにかく住民の話を聞いて吸い上げることで取り組みができていくことがよく理解できた。
- ・ 思っていたよりも本音で話し合われているように感じられ、綺麗ごとばかりの話ではなく共感を得ながら参加することができた。
- ・ 各自治体によって体制や動も大きく違い、考え方の幅が広がるきっかけとなった。
- ・ 話のテーマをきっちり決めないで、その場で出た意見に反応しながら、パネリストに意見を求めていく。これこそが、協議体のかたちに近いのかなと思った。
- ・ オンラインであることから、自由に入出りできることや、場所を問わず参加できる良さがあると感じた。
- ・ やはり自分の足で地道に地域を歩き、地元の人たちと話し、その中から生まれる出会いから生活支援コーディネーターの活動が始まるのだと改めて感じました。
- ・ 活動について語る時のパネリストの表情が輝いていて、熱意を感じた。発言の様子から、自分の活動に誇りを感じているとも感じた。
- ・ 行政職員をしているが、地域住民としての目線が不足していたことを痛感した。
- ・ 悩んでいることが共有できた。時間をかけて住民の皆さんと対話をしながら丁寧に関わっていきたくて思えた。
- ・ 色々な想いで活動されていることを知れて良かった。包括も一人の声から支援を広げていくところがあるので、地域といかに協働できるかを考えていきたいと思った。
- ・ 第2層生活支援コーディネーターの委託について検討中の行政の立場として参加。悩みは尽きないが、色々な方の意見をお聞きし、励みになった。

＜感想＞改善した方がよい点

- ・ パネリストが多く深掘して話を聞くことができなかった。次回開催時は、テーマ別でピンポイントに絞った内容が聞けると有難いと思った。
- ・ 自己紹介の時間が長く感じた。テーマトークや質疑応答の時間をもう少し多く取ってほしい。
- ・ 今後は資料を事前に掲載してほしい。
- ・ トークの内容が盛りだくさんでペースも早く、専門用語が飛び交い、内容を落とし込んでいる間に進行してしまい、考えをまとめにくかった。
- ・ 地域毎に沿った活動や取り組みが必要なため、似たような地域の状態(人口や高齢率等)同士での話し合いや交流が必要だと思った。
- ・ 初任者とベテランでは悩みの深さや内容等が違うと思うので、それぞれに分けて開催しても良いのではないかなと思った。
- ・ 行政に対する不信感を含む発言が多い印象。委託してる側にも悩みはあるので、そこを生活支援コーディネーターに伝えてほしい。
- ・ 席を外すのを躊躇してしまうので、休憩時間を入れてほしい。
- ・ 未経験者にとっては、敷居が高いと感じた。
- ・ 今後は視聴する参加者に事前に質問を受け付け、それに対して回答していく方法があってもよいと思った。
- ・ 成功例を聞くとやる気が出るものの、失敗例からの成功例だとより親近感が湧きさらにやる気が出ると思った。
- ・ 参加者が「参加しているという臨場感」を感じられたいと思う。

＜感想＞生活支援コーディネーターの課題

- ・ 活動へのアプローチは様々で、結果として実を結べばそれで良く、地域の要望を把握するところから地道に続けていくしかないと思った。
- ・ 本人の思いや地域の課題を知るためにゆっくりと話しを聞きいろいろな所にアンテナを張って気づくことを意識しながら柔軟に考えていけたら良いと感じた。
- ・ 市町村により協議体の考え方や活動内容に違いがあると改めて感じた。
- ・ 行政職員として参加したが、方々より有難くも痛い言葉をたくさんいただいたので、今後の地域課題解決に向けて庁内を駆け巡ろうと思った。
- ・ 生活支援コーディネーターはあまり世間に認知されていないことも活動しづらい要因の一つだと感じたため、よく関わる高齢者だけでなく、ほかの世代にも見える化し、知ってもらうことが大事なのではないかと考えた。
- ・ 全国の状況も踏まえた活動内容や価値観は、土地柄やコロナ、予算等の情勢にもよると感じた。
- ・ 形にとらわれない、形にはめ込まない、地域の区政に合わせて自由な発想をもって事業に取り組むことの重要性を感じた。
- ・ 生活支援コーディネーターはまず地域のことを知ることが大切であると学んだ。地域の抱えている問題や課題を知ると、その地域で何が必要か考えていくことができると思う。
- ・ 協議体が思うように機能していないのだが、今回のカフェを通じてしっかり意思を持ち、住民の信頼を得て引っ張ることができる生活支援コーディネーターが必要と感じた。
- ・ 社会福祉協議会として他の市町村の話を聞き、やはり市との上手な連携は必須と感じた。

<より詳しく知りたいと思った点>
・もう少し他県の協議体の情報がほしい。
・円滑な庁内連携の仕方。
・具体的に一例を出し、そのことについて意見交換する。
・移動支援。
・地域住民との関りや行政との調整。
・各パネリストの活動について、もう少し詳しく知りたかった。豊明市のウォーキングや太子町の移動支援など。
・生活支援コーディネーター側からの意見、行政側からの意見のすり合わせ。
・協議体で話し合っている内容、地域ケア推進会議と協議体の違い、もしくは地域ケア推進会議と協議体の連携について。
・上手く機能していないような場合はどのようなネックがあるのか。
・軌道に乗っている活動についての取り掛かり、どのようなメンバーで始めたのか等、始めるきっかけの話。失敗例も知りたい。
・地域支援の事例を細かく知りたい。
・「移送」については地域性も出ると思うので、色々なところからの話をもっと聞きたい。
・何かを立ち上げた後の継続の実情、工夫点について知りたい。
・課題解決に入っていく際の段階ごとの時系列での事例紹介(導入～関係作り～支援・サポート)。

問3.「生活支援コーディネーター応援サイト」は、生活支援コーディネーターの情報交換や交流のためのサイトです。このサイトに希望することがありましたら自由に記入してください。

・悩みの共有、事例(成功例・成功例)の共有、アドバイス。
・テーマ別にカテゴリ分けし、ノウハウ情報を集約。
・気軽に情報交換ができるような掲示板の設置。
・前向きな楽しい情報交換、交流。
・他県の協議体のHP等の紹介、参考資料。
・生活支援コーディネーター、市町村、地域包括支援センター、社会福祉協議会、高齢者の生活支援・移動支援を担うNPO、都道府県等、関係機関に広く周知。
・生活支援コーディネーター初心者が抱える悩み相談に対する窓口機能。
・先進地の情報を取り上げて紹介してほしい。
・更新があれば通知が届くようなシステム。
・情報の整理、こまめな情報のアップデート。
・カフェに係るQAの掲示、自由閲覧。
・先進事例等が共有できる仕組み。
・住民主体の立ち上げ支援におけるアドバイス。
・都会の事例発信。
・他市町の第1層(行政)と第2層の協働方法や、失敗事例等の掲載。
・沢山の方が交流されると思うので、経験年数や立ち位置などで見たい場所が検索できるような仕組み作り。
・後進の育成。
・印刷して職場で回覧しやすいようにページをPDF化してのデータ掲載。
・移動支援、買物支援等テーマ毎に、事例を調べられたり相談できる仕組み。
・同じ悩みを持つ者同士で個人的にチャット等のやり取りができる場。・テーマ別の掲示板のようなもの
・事例の集積(うまくいったコツ、アイデア自慢、困りゴト、つまづいたこと等々)
・都道府県の市町村支援の情報コーナーを設けてほしい。
・定期的な交流会やベテラン生活支援コーディネーターによる「よろず相談室」。
・些細なことから事業の予算化や仕組みのノウハウまで気軽に聞ける場。